

Newsletter

Vol.38 2019.3.20

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol. 38
会 長 荒木田美香子 (国際医療福祉大学)

★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・1頁
 養護教諭関係団体連絡会の活動の経過報告、協議会活動報告・・・2頁
 各種委員会活動報告・・・3頁～4頁
 養成大学の展望 大学紹介一北から南一・・・4～5頁
 事務局からのお知らせ、会計から、編集後記・・・6頁



副会長挨拶

副会長
遠藤 伸子
(女子栄養大学)

会員校の皆様には新年度の準備などで何かとお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

また、昨年は教育職員免許法改正による再課程認定があり、対応に追われた大学も少なからずあったのではないかと思います。

さて、本会においては、昨年4月に役員が交代し早1年が経とうとしています。この間、今期の主要な取り組みの1つである「日本養護教諭養成大学協議会版コアカリキュラム」の構築に向けて活動して参りました。本会は、様々な学問分野をバックグラウンドに持つ加盟校から成る組織ですが、むしろそれを強みに、いずれの会員校でも活用できるコアカリキュラムにしたいと考えております。もう一つの取り組みは、FD委員会が中心となり活動しております「実践力を高めるシミュレーション演習の進め方」です。先頃、会員校の皆様には調査に御協力いただきました。次回の教育セミナーやホームページ(以下HP)を通じて、その成果の一部を報告する予定です。

また、今期から新たに設置された広報委員会によりHPがリニューアルされました。ご覧いただけただけでしょうか? トップページには、「最新情報」や「更新情報」、「行政からの情報」があり、追加されたものがすぐに確認でき便利になりました。情報の提供やご要望があればご連絡ください。

ところで、「行政からの情報」に「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議(中間まとめ)」のリンクが貼られておりますが、最終報告はまだ公表されておられません。このレターが皆様へ届く頃にはHPにアップされていることと思いますが、本件については協議会でも関心を持って注視していく必要があると考えています。この検討会は、医療的ケア児が年々増加していることや、近年では重症なケースが増え、結果として保護者が付き添いを余儀なくされ、そのために継続的な教育を受けられない等の課題を検討するために設置されました。これまでに公表されている議事録や各委員の資料には、配置された看護師が医療的ケアをカバーできる経験や知識・技術が充分でない、また十分な経験がない看護師を指導できるリーダーがいけないなどの課題があがっています。また、看護師に十分な技術や知識があっても医療と学校という異業種間でチームを組む難しさ(学校での看護師の役割の不明確さ、教員等との子供の症状や重症度の見かたの違い、看護師のアセスメントを理解してもらえない等)や、医療的ケアを行う体制の整備が不十分(指導医や指導的立場の看護師の不在、学校看護師間の情報交換や連携がない、身分保障がなく専門性の高い看護師人材の不足)等が指摘されています。その結果、文部科学省は看護師配置など整備のために14億8千万円の概算要求を提出しました。また、国は、3年前に気管カニューレの交換などの医療処置に必要な高齢者が急増するという事態に備え、本来医師が行う業務のうち38行為に限り、看護師が行えるとする制度改革をしました。この看護師を2025年までに10万人にする目標でしたが、2018年8月現在、指定研修期間を卒業した数は、1041名に過ぎません。

私見ではありますが、以上のような現状に、養護教諭を養成する立場や本会として何を検討すべきか早急に考える必要を感じています。

養護教諭関係団体連絡会の活動の経過報告 会長 荒木田 美香子(国際医療福祉大学)

○2018年には会議を2回開催し、文部科学省の関係者との会談を1回行いました。
○2018年9月24日(月・祝)午後1時から国際医療福祉大学で第1回代表者会議を開催しました。
2018年度～2019年度の役割分担を下記のように決定しました。

- ・会 長:日本養護教諭教育学会
理事長 後藤ひとみ
- ・副会長:日本養護教諭養成大学協議会
会長 荒木田美香子
- ・会 計:日本教育大学協会全国養護部門
竹鼻ゆかり
- ・監 事:全国養護教諭連絡協議会
会長 村井伸子
日本健康相談活動学会
理事長 三木とみ子

なお、荒木田副会長から日本看護系大学協議会養護教諭養成教育検討委員会は2017年度で委員会を終了したことの報告があり、2017年度をもって退会となることを承認しました。

○2018年度の事業計画として、従来までの要請・要望活動の成果と課題及び各団体の活動報告をもとに、連絡会としての取組課題を共有し、要請活動等にむけて計画的に取り組むこと及び文部科学省担当課を訪問し、協議のためのルートを確保して、必要に応じて要請活動を行うこととしました。

○上記の活動計画を受けて、2018年11月1日(木)に文部科学省において、日本養護教諭関係団体連絡会と文部科学省の養護教諭養成関係者との意見交換及び終了後に第2回目の代表者会議を行いました(ニューズレターVol.37にて報告済み)。

日本養護教諭関係団体連絡会は「養護に関する専門科目」の改正を目指して活動していることを重ねて伝えました。文部科学省からは「大綱化という考え方の中で逆に大学をしばって大丈夫なのか」という意見が出されました。この経過を本協議会の役員会でも共有し、議論しました。その際に「養護に関する科目は大綱化されていない。養護教諭養成課程の教職に関する科目は、中学校の教諭から指導法を抜いたものであり、教職に関する科目が少ない。例えば、保健室経営に関する科目を教職に関する科目に入れるという案もある」などの意見が出されました。本協議会は養護教諭の養成の質を担保することが目的であり、本協議会としてもどの方向性で行くべきか、継続して議論する予定です。

協議会活動報告 庶務 鎌塚 優子(静岡大学)

【2018年度第5回役員会】

今年度の活動報告は以下のとおりである。

日時:2018年12月9日(土)10:30~13:00

場所:国際医療福祉大学東京青山キャンパス

出席:荒木田、池添、遠藤、大川、下村、高橋、竹鼻、津島、松枝(50音順・敬称略)

司会:荒木田 記録:竹中

主な審議・報告事項

1) 2017年度総会・養成教育フォーラムの反省
開催後のアンケートをもとに役員で意見交換を行い課題について検討した。

2) 養成教育セミナーの反省
分科会については、グループで情報交換ができ有意義だったとの意見が多く、全体的に概ね好評であった。情報交換の時間が足りない等の課題については、来年度に向けて検討することとした。

3) ホームページについて
・文部科学省の学校における医療的ケアの実施に関する検討会議は11月にも開催されているため、資料等は随時HPに掲載することが報告された。
・専修免許が取れる大学院等の一覧をHPに記載することが承認された。

4) 事業活動報告書2018年度の発行計画案
2018年度事業報告書の原稿依頼があった。原稿締め切りを2019年5月13日とした。報告書の発行日は2019年9月とする。

5) ニュースレターについて
協議会活動を活性化する方策について役員で意見交換を行った。活性化のための新規事業については次回の役員会で引き続き検討することとした。

6) ファカルティデベロップメント委員会(FD委員会)の活動報告

7) 教育課程(カリキュラム)・養成制度(法制度)検討委員会の活動報告

8) 会員校等の状況
・新規に淑徳大学と日本赤十字秋田看護大学の2大学の入会があった。

9) 養護教諭関係団体連絡会報告

各種委員会報告

「FD検討委員会」活動報告

委員長 松枝 睦美 (岡山大学)

FD検討委員会は、委員長・副委員長をはじめ委員全員、新たな構成メンバーとなり、今期の活動をスタートしました。

本委員会では、会員校に役立つ内容や養護教諭養成教育の課題についてなど様々な議論を経て、会員校の授業実践に役立つ内容を提案できればと考え、今期2018年度から2020年度の三年間の活動として「実践力を高める演習の進め方—教職実践演習で展開する—」をテーマとしてすすめることにいたしました。活動内容としては、会員校の現状とニーズを把握した上で、養護教諭養成における「教職実践演習」の具体的な項目を取り上げ、必要に応じて取捨選択して取り組めるよう、教職実践演習で展開する演習授業計画として検討・提案する予定です。提案内容についても、会員校のご意見を集約して、活用しやすい計画を創り上げたいと考えております。

今年度(2018年)の主な活動として、「教職実践演習」における会員校の現状とニーズを把握するためのアンケートを実施しました。(メールでWeb上調査の依頼:2019年2月8日、アンケート回答期限:3月6日で実施)。会員校の皆様には、年度末の慌ただしい時期にもかかわらず、FD検討委員会の活動にご理解いただき、ご協力いただけましたことに、心より感謝申し上げます。調査結果につきましては、2019年度に報告させていただきます。

2019年度は、2018年度会員校アンケート調査結果を踏まえて、本委員会委員で教職実践演習の演習授業計画を立案し、まずは1案を日本養護教諭養成大学協議会のWeb上で公開する予定です。この公開と同時に、提案した計画案に対する会員校の皆様のご意見等をいただく予定です。こちらに関しても、ご協力の程、よろしくお願いたします。計画案に対する意見の集約を実施した上で、本委員会委員でさらに検討を重ねて、会員校の現状にあわせ活用しやすい、より実践に即した形式と内容に修正し、具体的な展開方法や教材についても提案できるよう準備を進めてまいりたいと考えております。

今期の活動が、会員校の皆様との双方向の交流となり、FD活動としても、ブラッシュアップできるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

「養成制度検討委員会」 「カリキュラム検討委員会」活動報告

委員長 大川 尚子 (関西福祉科学大学)

今期の検討委員会では、これまでの教育課程(カリキュラム)検討委員会の成果と前期の調査結果を基に、各大学の養成教育へ活かすことのできる本協議会独自の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を考えています。

9月に実施した養成教育セミナーのグループワークでは、「コアカリの作成プロセスについて、時代的、社会的なニーズを反映させた養護教諭に求められるコアな資質・能力の再確認が必要。」「基本的なことではあるが、養護の捉え方を協議会として明確化したり、採用時に必要な養護教諭の能力を協議会として洗い出したりしてカリキュラムに活かすことも重要。」「開放性での養成ということを考えると、ばらつきはある程度いたしかたない。それよりもモデルコアを明確にすることで各大学が強みを発揮することの方が重要。」「コアカリは、最低ラインの確認という再認識が必要。」「大学によっては新設科目が難しく、統合なども踏まえたカリキュラムの用意が必要。さらに作成の前に、学生自身の子ども観や養護観をどう持たせるかという視点や共通認識も必要。」「各系ごとのコアカリのすり合わせが必要で共通項を見出し、それを提案していただきたい。系によって特徴があるので、目指すべき養護教諭としてのベースを明確にすることが重要。」「3つの系が一堂に会する機会を活かして最大公約数をだすとよいのではないか。」などのご意見をいただきました。

第3回検討委員会を2月17日に開催し、養護教諭の実践に必要な力を可視化し、会員校の行う教育の質を高めることを目的に、本協議会独自の「養護教諭養成課程コアカリキュラム2020(案)」を作成するためのたたき台を作りました。(案)は、養護教諭養成課程において卒業時に必要な力を明確に示すために、科目の枠をこえて、文部科学省から提示された新教職課程(2019年4月実施)を参考に、大きくくり化の方向で考えています。

現在、会員の皆様のご意見をお聞きするためのアンケートを作成中です。アンケートができましたらメールにて配信させていただきますので、忌憚のないご意見をお寄せください。

アンケートの結果をふまえて、皆様のご意見を反映させ、次回の養成教育セミナーで、再度カリキュラム案を提案させていただき、グループワークにてさらに洗練していくようにしたいと考えています。

そして、最終的には、2020年度の総会で協議会としての「養護教諭養成課程コアカリキュラム2020」をご提案させていただけるように準備をすすめていきます。

「広報・渉外検討委員会」 活動報告

委員 竹鼻 ゆかり (東京学芸大学)
池添 志乃 (高知県立大学)

今期の広報・渉外委員会の主たる活動は2つ、ホームページをリニューアルしたこと、例年通りニューズレターを年3回発行したことです。

ホームページについては、より見やすく最新情報を得られる内容としました。トップページには「注目のニュース」として養成協議会に関わる新しい情報を掲載するとともに、「お知らせ」欄には「最新情報」、「行政からの情報」、過去の「更新情報」の3つを設け、様々な情報をより見やすく、より簡単に入手できるようにしました。

また、「協議会について」「開催予定・活動報告」「ニューズレター」「会員校紹介」「入会のご案内」「行政からの情報」のページを設け、内容を充実させました。「協議会について」では今年度の新たな役員一覧を掲載しました。また、昨年度作成した本協議会のシンボルマークについては、ロゴをつけてダウンロードできるようにしましたので、皆様是非ご活用ください。「開催予定・活動報告」では、総会の案内と報告、養成教育フォーラムおよび養成教育セミナーの開催案内と実施報告をするなど、協議会の内容を具体的に皆様にお届けできるよう努めました。なお、過去に発行した10周年記念誌をPDFでダウンロード出来るようにしましたのでご覧ください。「会員校紹介」では、新規の加盟会員校について、随時更新するようにしました。さらに「行政からの情報」では、厚生労働省や文部科学省が発信している関連情報を閲覧出来るようにしました。このようにリニューアルしたHPをぜひご覧いただき、ご活用ください。

もう一つの活動であるニューズレターは、例年通り、3回発行しました。内容の刷新には至ってありませんが、より充実した内容となるよう検討して参ります。

広報・渉外委員会では、今後も皆様に最新の情報をお届け出来るよう努力します。ホームページやニューズレターについて、皆様のご意見ご要望をお聞かせください。

*このシンボルマークがHPよりダウンロードできます。↓



日本養護教諭養成大学協議会

養成大学の展望 大学紹介 - 北から南 -

心理学の学びを活かす養護教諭の養成

十文字学園女子大学 人間生活学部
人間発達心理学科 齋藤 千景

十文字学園女子大学 人間生活学部 人間発達心理学科では、学生が指定の科目を履修することにより養護教諭一種免許を取得することができます。本学科は2004年に開講し、今年の卒業生で12期となり、現在まで約400人が免許を取得しています。

本学科のカリキュラムの特徴は心理学をベースにしていることです。カリキュラムは、生涯発達科目と臨床心理科目を大きな柱として、研究法・実習科目、社会科目、生活科目などで構成しています。具体的には生涯発達科目では心理学概論、発達心理学概論に加えて乳幼児時期の心理学、児童期の心理学、青年期の心理学、中高年期の心理学が必修となっています。臨床心理科目では臨床心理学概論、発達臨床心理学概論、カウンセリング理論の必修科目に加えて、乳幼児期の心理臨床、児童期から青年期の心理臨床、障害者・障害児心理学、心理療法などの選択科目が置かれています。さらに研究法・実習科目として心理学統計法、心理アセスメントをはじめカウンセリング技法、発達・教育相談などの演習科目も豊富です。

本学科は、これらの学びを通して心理学の基礎的な知識に基づき、心や行動の特徴や法則性を考える力、経験則的・主観的な考え方と客観的・科学的な考え方の違いを判断できる力の育成を目指しています。それらは、養護教諭として子どもを観察する力、根拠に基づいてアセスメントする力、的確かつ柔軟に対応する力にもつながると考えます。

多職種協働で対応しなければならない子供の教育上の課題は、これからますます増えていくでしょう。学生にはチーム学校の中で、発達心理と臨床心理の両方を学んだ養護教諭として活躍してほしいと期待しています。現在約220名の卒業生が養護教諭として全国で働いており、卒業生が増えるにしたいが、同窓会も設立され、年に2回の勉強会を実施しています。大学としても、地域連携も含めた公開講座を実施するなど、卒業生の学びを支えていく役割を果たしており、卒業生のネットワークが広がるのを願っています。

アクションリサーチャーを目指して

岡山大学 宮本 香代子

本学は、平成20年度に教職大学院を開校し、特色を活かした教育課程により、多角的な課題発見・分析能力の育成を目指し、総合的な概論的科目とデマンドサイドのニーズに基づいた科目を設定している。中でも、主体的な課題の発見・分析を可能にするために本学独自の科目である「教育実践研究の方法」及びもう一つの特徴として「学校保健・学校安全とリスクマネジメント」を学級・学校経営に関する領域に設けた。選択科目には、「生徒指導と発達支援教育」、「学校保健のデザインと実践」等があり、養護教諭の専門的視野を広げ、他教科に対する理解、指導力の拡充・深化だけではなく、他教科に対する理解や教育「学」としての理解の充実を目指している。また、「チーム学校」という意識の涵養を図るため、現在の学校教育が抱える多様で複雑な教育課題に対応できる高度教育実践を有した教員養成と教員研修の機能を拡充・強化することを目指している。

今年度まで、10名の養護教諭の新卒学生や現職教員が入学し、各自のテーマとしての自己課題や行政課題、自校の課題などに取組んでいる。養護教諭としては専門分野以外の科目を受講し、「教育課程編成の実践と課題」「特色あるカリキュラムの開発」「授業の指導計画と学習開発」「生徒指導と学校カウンセリング」「通常学級における特別支援教育の実践と課題」「学級・学年・学校経営の実践と課題」など共通科目として他職種の学生と共に学ぶ。

こうした内容は、学校経営・学級経営を俯瞰したり、よりメタ認知能力を高めることにつながっている。教職大学院で目指す教員像は、学校教育に携わることへの強い使命感と熱意があり、学校教育について幅広い関心と学校教育の課題の解決に意欲を持ち、高度な教育実践力の獲得・向上を目指す人、また、学校づくりの有力な一員になろうとしている人や地域・学校において指導的役割を果たす人である。

学生の体幹となる資質・能力をアクションリサーチャーとして表現するために、学校経営・学校保健・保健室経営等に関する理論と実践を教授研修し、教育現場の課題について、理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし、遂行できる総合的・実践的な力量を備えた養護教諭の誕生を期待したい。

大学院における養護教諭養成

関西福祉大学 津島 ひろ江

関西福祉大学は関西金光学園に1997年単科大学の社会福祉学部が開設され、その後、20年を経過して看護学部、教育学部の3学部3研究科体制となりました。養護教諭の養成は看護学部と教育学部の2学科でなされています。本稿では看護系の教育を紹介いたします。

看護学部は看護師科目を必修とし、保健師、助産師、養護教諭免許取得のための科目が選択制となっています。それを基盤にして、看護学研究科博士前期課程、さらに博士後期課程を設置して9年間の看護学高等教育・研究体制を構築しました。全国では、養護教諭専修免許状を取得できる大学院（修士課程）は2018年度現在47大学あり、そのうち看護学研究科は8研究科、看護学専攻6専攻あります。保健・医学系の大学院で10看護教育課程があり、看護系大学での専修免許状取得できる大学は約半数の24大学となっています。

その中でも本看護学研究科の特徴は、学部で看護師必修と養護教諭一種選択、大学院博士前期で養護教諭専修免許状を取得できる学校保健看護学領域のカリキュラムを開講して養護教諭の実践力の向上をめざしていること、さらに博士後期課程にも養護教諭が学べる学校保健看護学領域のカリキュラムを開講して研究能力を向上させ、博士（看護学）の学位が取得できる教育体制を構築していることです。やっと教育体制が整いましたが、今後においては、学生のニーズを把握して、教育課程や社会人入学生への支援の方法など改善していきたいと思えます。

養護教諭養成大学協議会において、養護教諭専修免許状の養成教育についても協議され、大学間交流が必要な時期に来ていると思えます。私のゼミ生が取り組んでいることの例としては、学部：「養護教諭のチームアプローチとコーディネーション—実践事例からの考察—」、博士前期：「養護教諭のライフスキル教育の実践と評価」、「特別支援学校の医療的ケア技術研修ニーズ調査」、博士後期：「被災状況に対応した保健室経営案の開発」、「ASD児に特性を伝えるプロセスとその背景要因の分析」等が挙げられます。

本学では、2019年に養護教諭の9年間の教育体制が完成しますが、カリキュラムの1領域として位置づけられたものです。次の段階では「養護学」が探究できる9年間の教育体制とモデルカリキュラムの構築が本協議会に提案される時が来ることが期待されます。



事務局からのお知らせ

会計から

2019年度の「会員登録」「基本調査」「会費請求書」をニューズレターに同封いたしました。

◎「会員登録」及び「基本調査」は、5月31日(金)必着でWebあるいはFAX、郵送にて届出てください(会則第4条)。退職や異動により評議員を交代される場合は、次のご担当者へ確実に引継ぎをお願い致します。

<https://jp.surveymonkey.com/r/yogo2019>



◎「会費請求書」は、4月1日の日付で作成しています。そのため、それぞれの大学での事務手続きにつきましては、十分にご留意くださるようお願いいたします。また、『会費は毎年度7月末日までに納入しなければならない』(会則第5条)と定められております。期日前の納入にご協力をお願いいたします。学校名および学部、学科の変更等、備考に書いてお知らせくださると、わかりやすく助かります。

◎大学番号の記入、大学番号のご記入をよろしくようお願いいたします(ニューズレター送付の封筒に大学番号を記載しています)。

2019年度 総会・養成教育フォーラムのお知らせ

日時：2019年 9月9日(月) 13:00～
養成教育セミナー
2019年 9月10日(火) 10:00～
総会・養成教育フォーラム
場所：きゅりあん(東京都品川区東大井5-18-1)
アクセス：JR京浜東北線・東急大井町線・
りんかい線大井町駅徒歩1分

2019年度総会・養成フォーラムは、例年とは異なり **月曜日、火曜日の開催**になりますので、日時をご確認下さるようお願いいたします。

2018年度には、日本赤十字秋田看護大学、淑徳大学香川大学の3大学が新規に加入してくださいました。皆様のお問い合わせにスムーズな対応ができるよう、事務局として本協議会の活動を支援していきたいと思っております。お気軽に右記連絡先にご連絡ください。

年度末になり、今年度の会計を締める時期となりました。前期の宍戸先生から引継いだ会計ですが、何とか1年を無事終えることができホッとしています。

会費を3万円に値上げさせていただいたことで、今年度は①教員養成セミナーの資料代を無料とした、②FD委員会とカリキュラム委員会に活動費を追加支給した、など活動の充実に活かしました。

また、本会のホームページも専門の管理会社に委託することができ、リアルタイムの情報発信が可能となりました。このように皆様からお預かりした貴重な会費は、役員会で検討しつつ大切に使用させていただいています。

2019年度の会費についても納入お願いします。年度当初でお忙しい時期とは思いますが、早めに振込手続きをお願いします。2019年度も節約しながらも充実した活動となるよう会計管理をしていますので、ご協力をお願いします。

(会計：下村淳子)

編集後記

今号では「大学紹介 -北から南-」において、3大学の先生に、養護教諭養成に関わる学部教育、大学院教育、教職大学院をご紹介いただきました。今後、皆様の大学の様子についても記事として紹介して参りたいと存じます。ご協力いただける方は是非お申し出ください。

また、ニューズレターに関する企画や要望等、会員の皆様からのご意見をいただけますようお願いいたします。広報・渉外担当として、皆様のニーズにあったニューズレターをお届けできるようこれからも努力します。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(広報・渉外 竹鼻ゆかり 池添志乃)

HPより、ロゴとマークが別々にダウンロードできます。ご活用ください。



日本養護教諭養成大学協議会

【事務局】国際医療福祉大学
TEL&FAX：0465-21-6602
(事務局)
Mail：yogojimu@j-yogo.jp